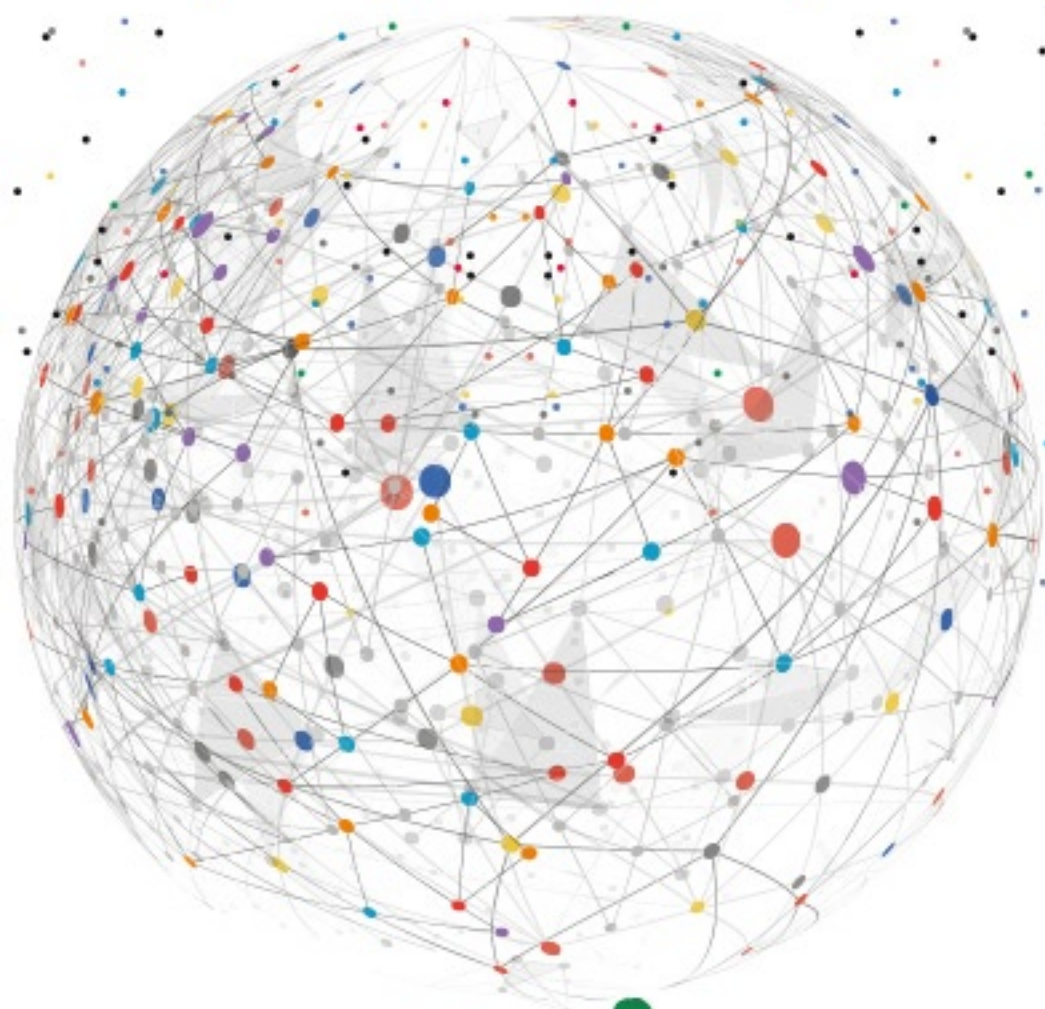


pal*system

バルシステム千葉

バルシステム千葉

2030年ビジョン



はじめに

パルシステム千葉では2030年ビジョン策定にあたり、10～20年後の組合員主流世代になるであろうF1層(20～34歳の女性)の特性を知るための場、パルシステム千葉の歴史を振り返り共有する場、2030年に向けての社会環境変化と社会から求められる行動を学ぶ機会を設けました。職員とは「将来の夢」について、組合員の皆さんとは「しあわせ」をテーマにしたワークショップを開催し、多くの意見をいただきました。また、専門3部会(組織運営部会・事業部会・人と組織のあり方部会)を設置し検討課題への協議を行い、2030年ビジョン策定プロジェクト会議で取りまとめをおこないました。

千葉県は2019年12月現在627万人となり、世帯数は2010年の257万世帯から2019年には274万世帯へ増加し、組合員は約25万人、総事業高は300億円、組合員参加の規模は拡大し「参加の輪」が広がりました。直営農場「パルグリーンファーム」を2012年に設立し、現在「とれたて便」は全センターに供給しています。総合福祉では夕食宅配事業、家事支援事業を開始、子会社(株)ケア・アクシスとの統合により居住系サービスの展開を計画しました。平和活動ではフードドライブを通して他団体との連携を強めました。

今後2030年までの10年間でさらなる高齢化がすすむ一方で、IT技術の躍進によりくらしの生活環境は大きく変化します。また、地球規模で自然環境が変化しており、今後も経験したことのない災害が起こる可能性があると考えられています。このように大きな環境の変化が予測される時代だからこそ「つながり」や「ささえあい」を大切に、これからも「コミュニティ生協」として地域になくてはならない存在になることをめざし2030年ビジョンの達成に向けて取り組んでいきます。





心豊かなくらしと 共生の社会を創ります

(1) 理念の解説

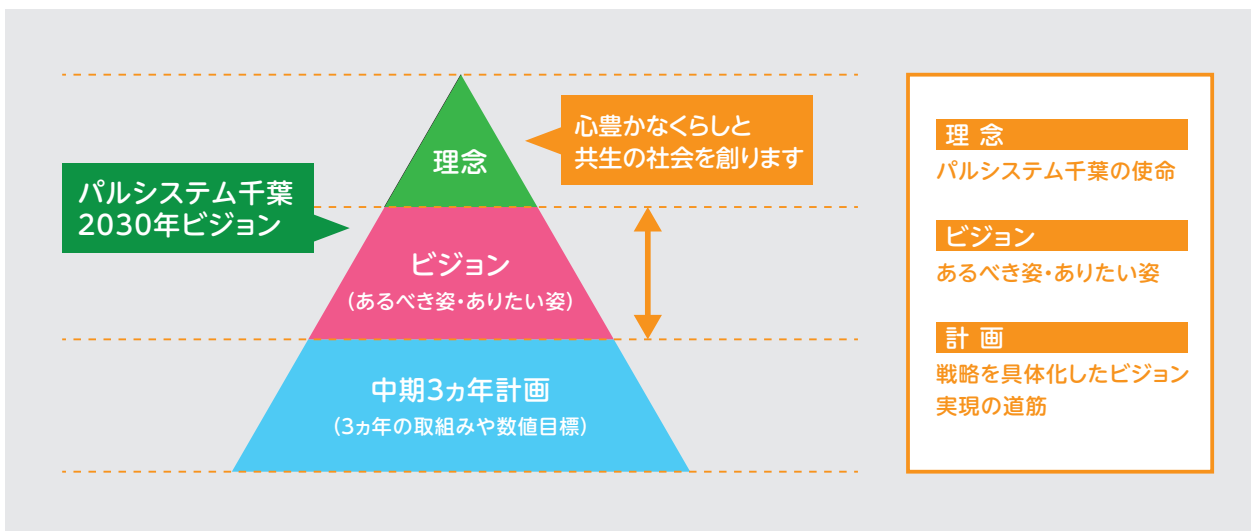
「心豊かなくらし」

物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさや安らぎとくらしの質、そして人と人との結びつきを大切な価値として求めています。

「共生の社会」

自然と人の共生を基本において、地域や属性を越えた人と人との共生、そして現在と未来との共生をめざし、人と人が助け合う社会を実現します。

(2) 理念、ビジョンとの関係性の解説



2030年ビジョンは、パルシステム千葉の「理念」として掲げている「心豊かなくらしと共生の社会を創ります」の実現に向けて、「あるべき姿・ありたい姿」を表現したものです。2030年ビジョンを示すことで、組合員や役職員、利害関係者との一体感が醸成し、組織内に活力が出てくると考えています。2030年ビジョンは、夢や希望が膨らむようなパルシステム千葉の姿をイメージしながら策定をしました。



2030年ビジョンのテーマ

つながる力とささえあいの心で 笑顔あふれる地域コミュニティを つくります

～コミュニティ生協として、くらし課題解決に
取り組みます～



※コミュニティ生協とは

「生活協同組合」は組合員によるメンバーシップの組織です。くらしの中で生じるさまざまな課題を解決するためには、地域との協同が不可欠です。『組合員や地域の人々と力を合わせながらくらしやすい地域をつくり、組合員一人ひとりの豊かなくらしを実現する生協』をめざし、パルシステム千葉は2003年に「コミュニティ生協宣言」をしました。



1.「組合員の想いととともに 進める生協運営」

くらしの課題解決を組合員や地域の方々とともに考え、ともに行動することで共感を広げ、「つながる」生協をつくります。

- (1) 組合員とともに学び・運営する組合員活動は、くらしの役立ちを高めてパルシステム千葉への共感を広げ、組合員の「つながり」をつくります。
- (2) 情報ネットワークなどを利用して、新たな出会いや共感を生むコミュニケーションの場をつくり、組合員活動への参加を広げます。
- (3) これからの組合員活動は、地域に根差した活動として取り組み、地域とのつながりを育みます。





2.「食の安全・安心と産直」

つくるひとの想いと食べるひとのよろこびをつなげて、食文化の継承および持続可能な生産と消費の実現をめざします。

- (1) つくり手や食べ手と一緒に学び・考え・想いを語りあい、つながりを深めて、持続可能な生産と消費の実現をめざします。
- (2) 「食の安全」で社会をリードするとともに、「食と健康」や「食の楽しみ」を伝えて、食文化の継承に取り組みます。
- (3) 県内生産者と協力して地産地消の取り組みを広げ、食料自給率の向上をめざします。



3.「ささえあいの心で創る 地域コミュニティづくり」

誰もが安心して笑顔でくらし続けられる地域づくりを地域団体とともに取り組みます。

- (1) いろんな「わたし」を認め合い、ささえあい、誰もが社会の一員として尊重される「ユニバーサル社会」の実現をめざします。
- (2) 社会課題に取り組む団体のサポートや団体間をつなぎ、地域団体と協力して課題解決に取り組み、安心してくらすことができる地域コミュニティをつくります。
- (3) ささえあい、出会いの場として、気軽に集まれる居場所やコミュニティをつくり、多様でゆるやかなつながりを広げます。





4.「明るい未来に向けた 環境活動と平和活動」

自然環境保全や平和な社会づくりを「協同の力」で
すすめて、明るい未来を次世代につなぎます。

- (1)地球温暖化防止対策を組合員とともに考え、自然環境に負担を与えない暮らしへの転換をはかります。またCO₂削減と再生可能エネルギーの普及に努めます。
- (2)平和への想いや戦争の悲惨さを共有する機会をつくり、世界平和と核兵器廃絶の実現をめざします。
- (3)他団体との協同を通じて社会的課題に積極的に取り組み、持続可能な地域づくりを社会に広く呼びかけます。



5.「組合員の声に応える事業展開・地域になくてはならない存在に」

社会環境の変化を柔軟にとらえ、組合員の“あったらいいな”や新たなくらし課題解決に向けた事業を進めます。

- (1) これからの社会環境変化を柔軟に捉え、様々なニーズに応えた事業展開に挑戦して、組合員のくらしをサポートします。
- (2) 情報ネットワークなどを利用して多くの組合員の声をあつめ、組合員の“あったらいいな”を追求し事業を進展させます。
- (3) パルシステム千葉の事業と活動の取り組みを社会に向けて広く発信して理解を深め、地域になくてはならない存在となります。



2030年までの社会環境の変化

1. 千葉県の人口

人口・年齢別人口の予測推移

単位：人	2020年		2025年		2030年	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
0-14歳	724,047	11.7%	674,898	11.0%	638,821	10.7%
15-64歳	3,726,708	60.1%	3,652,524	59.7%	3,528,129	58.9%
65歳以上	1,753,896	28.3%	1,790,748	29.3%	1,818,965	30.4%
計	6,204,651	100.0%	6,118,170	100.0%	5,985,915	100.0%

世帯の家族累計別、予測推移

単位：千	2020年		2025年		2030年	
	世帯数	構成比	世帯数	構成比	世帯数	構成比
単独	901	33.8%	942	35.0%	965	36.2%
夫婦のみ	574	21.5%	581	21.6%	578	21.7%
夫婦と子	761	28.5%	736	27.4%	704	26.4%
ひとり親と子	240	9.0%	250	9.3%	252	9.5%
その他	192	7.2%	179	6.7%	169	6.3%
計	2,669	100.0%	2,688	100.0%	2,669	100.0%

出典「国立社会保障・人口問題研究所」

千葉県の人口は2030年までに0歳～14歳、15歳～64歳は減少が続き、600万人を下回ります。一方、65歳以上の高齢者は増加傾向が続き181.9万人となり構成比は30.3%になり、3人に1人が65歳以上の高齢者となることが予想されています。

千葉県の全54行政区の内、東京都、埼玉県と隣接する地域など、18行政区の人口が増加すると予想され、県内行政区においても少子高齢化の進行に差が現れます。

つくばエクスプレス沿線では大型マンションや戸建の着工数が増加し、流山市では小学校が新設されるなど流入による若年人口が著しく増加する一方で、千葉県全体では65歳以上の老年人口は増加、年少人口、生産年齢人口は減少すると予測され、地域によって状況は変わってくると思われます。



2. 社会環境の変化

(1) 人口減少、少子高齢化

日本の総人口は2030年に1億1,162万人となる事が予想されています(2019年11月時点1億2,618万人)。世界でも類をみない超高齢社会に突入しており、総務省は2019年9月に総人口の28.4%が65歳以上の高齢者であると発表しました。2030年にはさらに高齢化が進み、31.6%になると予想されています。また2019年の出生人数は86.4万人、初めて90万人を下回りました。将来的な社会保障制度などへの影響が懸念されています。価値観の多様化、非正規雇用の増加、女性の社会進出、未婚、晩婚化、子育てや教育費用の問題など、様々な理由、社会問題から少子高齢化が進んでいると考えられています。

(2) 自然災害・環境

近年、台風や集中豪雨など、自然災害による被害が増加しています。2019年10月の令和元年房総半島台風は県南部を中心に最大約64万世帯の停電、住宅の損傷、断水、通信網の断絶が発生しました。生活インフラの復旧までに3~4週間掛かった地域もあり、影響が広域かつ、広範囲、長期間に及びました。進行する地球温暖化を抑えるべく、温室効果ガス(主にCO₂)の排出削減に向け、再生可能エネルギーの技術開発や普及、新たな事業が広がっています。

(3) 情報技術(IT)

AIやロボット、IOT等の第4次産業革命はコスト削減、新たな高付加価値サービスの提供、医療や介護、くらし方の改革が期待され、生活の質の向上が期待されています。また商品やサービスの決済はスマートフォンなどの利用が広がり、物流業界では自動運転技術の活用について実用化を目指しています。インターネット上で経済活動が行われるなど、情報技術がより身近で欠かせない社会となります。

(4) 経済

GDP世界第三位の日本は、世界におけるシェアが年々低下を続け、今後もその傾向が続くと考えられています。日本を取り巻く環境はさらに厳しさを増していく事が予想され、量的拡大から質的向上への転換が求められています。国連では2015年のサミットでSDGs(持続可能な開発目標)を新たな世界基準として採択しました。誰ひとり取り残さない世界の実現の為に17項目には、貧困、飢餓、健康、福祉、環境、生物多様性、平和と公正など全ての人が平和と豊かさを享受できるようにする事を目指す目標となっています。世界規模の課題解決に向け、積極的な取り組みが世界各国で動き出しています。

(5) 地域コミュニティ

少子高齢化、共働き世帯の増加、くらしの多様化によって、自治会や地域の住民間の関わり方が変わってきています。地域コミュニティや、ご近所付き合いが少なくなる一方で、SNS(ソーシャルネットワークサービス)を通じて、共通の趣味を持つ人々の集いが催されるなど、コミュニティの在り方、役割が変わりつつあります。

(6) 食・農

TPP11発効協定(環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定)が2018年12月に発行されました。品目によっては段階的に関税が撤廃され、農業就業者にとっては厳しい競争社会になると予想されています。また高齢化や離農による耕作放棄地の拡大、食料自給率の低下、食品の安全基準の見直しなど、日本の農業、食の安全への懸念が広がっています。

2030年ビジョン策定議論での組合員・職員からの意見

(一部抜粋)

2030年ビジョン策定議論での組合員や職員からの意見をご紹介します。

組合員に「しあわせを感じる
ときはどんなときですか」を
聞いてみました。

(上半期報告会にて質問)



家族で食卓囲み、美味
しいごはんを食べてい
るとき

誰かの役に立って
いると感じたとき

家族の幸せが私の幸せ

新しいことに挑戦し
ようとしているとき

自分が成長していると
感じたとき

孫が笑顔で楽しそう
に遊んでいる姿を眺
めているとき

組合員に「どんな社会になれば
しあわせですか」「しあわせづ
くりのために始めてみたいこと
は」を聞いてみました。

(上半期報告会にて質問)



困っている人をお
互いに助け合える
社会

女性が働きやすく
活躍している

若い人たちにとって
希望がある社会

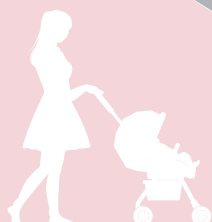
「声掛けをしてみる」
「笑い掛けてみる」

地域に参加して
関わりを持つ

健康でいるため
の行動

職員に「将来のパルシステム
千葉への期待」を聞いていま
した。

(職員版トーク・トークにて質問)



他生協をリードする
生協にしたい!

社会貢献のトップ
リーダー的存在に
なっている

子育てサポート企業
と言えばパルシステム

新しいことに挑戦する
組織風土

ずっとパルシステム
で働きたい

地産池消と食料
自給率アップ